

今月で300号を迎えました。これまでのご支援を心より感謝申し上げます。

第300号

こどもはみんなすばらしい

なでしこ

燃える心、豊かな心、ふれあう心

学校法人 阪急学園 / 社会福祉法人 發榮福祉会



平田建築設計株式会社
社団法人西宮青年会議所

取締役
理事長

『今、目の前にある責任』

平田裕之

桜の季節を迎えましたね。あの満開の桜は不思議と私を圧倒し、そして立ちすくませるのです。

私は大学を卒業後、生まれ育った西宮で建築士として生活しております。家庭を持ち、仕事に追われる中、自己研鑽と地域貢献を考え、社団法人西宮青年会議所に入会して8年になります。建築設計業と申しますのは、技術者として社会に貢献していくことが殆どで、地域社会のコミュニティ等に関わらずに生きていくことが出来る仕事です。青年会議所に入会することで、日常ではあまり関わらなかつた地域社会のコミュニティに関わり、私は様々な事を学んだように思います。

さて、ここに一冊の本があります。藤原正彦氏の「国家の品格」です。二〇〇六年にミリオンセラーとなった本ですから、お読みになった方も多いのではないのでしょうか。以来「品格」という言葉が多く使われるようになりました。オリンピック選手としての品格、横綱としての品格。そんな中、電車に乗れば化粧をする女性、漏れるほどの大音量で音楽を聞く若者、平然と携帯電話を使用するサラリーマンで溢れています。そして思うのです。この平穩に生活する中で、日本人の品格はどこへ消えたのか、この国の未来はどの様になるのか、私は何をすべきなのか、と。

「品格」を考えると、強く感じるのには「日本人としての誇り」が、いつのまにか言葉に出しにくい存在になったのではないかと、いうこと

とです。

幼稚園に通う子を持つ親として、地域のボランティア団体の長として、そして日本の一国民として、それはあまりに悲しい事のように思われてなりません。

昔は、先生に怒られ泣いて帰っても、おまへの行いが悪いと父に叱られ、親や学校に隠れて悪さしても近所のおじさんに叱られたものです。そうした地域ぐるみの、大人から子どもへ脈々と受け継がれた教育に、「日本人としての誇り」を育てられたように思うのです。そして、そこで初めて「品格」が生まれてきたのではないのでしょうか。

教育とは家庭、学校、そして地域という三つの要素のどれかひとつでも欠ければ成立しないように思います。自身が地域社会のコミュニティに関わることで多くを学べたように、今、次代の子どもたちに教えられる何かが我々大人に、きつとまだあるはずなのです。

満開の桜がこんなにも人の胸を打つのは、巡る命の尊さと、脈々と受け継がれる命の強さを思い知らせるからなのかもしれません。良いことは守り、受け継ぎ、そして、継承させてゆく。その生命の営みを、桜は我々にまざまざと見せつけ、圧倒させるのです。

受け継いできた日本人としての誇り、そして品格を、将来この国を支える子ども達に伝えていく。それが今私たち大人の責任ではないでしょうか。

(西宮市在住)